



前小野一區行政区長
原口 重信さん

豪雨に見舞われた当日の様子を
当時の行政区長さんに聞きました。

◇当日の様子

朝5時20分ごろ、激しい雨の音が目ざめ、すぐ家から星野川の水位の様子を見ました。普通の洪水より多いと思いました。私の朝の日課の神棚、仏様の花の水替えをして再び、川の水位を見ました。15分くらい経っていたでしょうが、光延の住宅の前まで水位が上がっていました。これは危ないと感じ、すぐに避難所になっている一区公民館、製茶工場を開けに行きました。工場の前には縫尾地区住民が10人程みえていました。地元の消防団がマイクで避難の勧告を告げていました。その

時「区長、縫尾地区に避難しない人がいる。説得してくれ」という情報が入りました。すぐに縫尾に行く、道路は60cm位の水位があり、大きな松の木がぶかぶかと浮いて流れていました。住民に「早く避難しなさい」と説得しましたが、「私はもうここでよか」との返事。「だってん(皆)しよるけん、あんたもしなさい」と怒鳴り、ようやく連れ出しました。民生委員さんと会い、自宅が危ない要支援者3人を公民館に送りました。それ以外の要支援者の方は「自宅の方が安全」と説得をして「安否を確認した」との報告を受けました。

7時半ごろ、雨は少し小降りになりました。朝ご飯の準備するよう、家内に頼みました。幸い5人の方々から米、手間を頂き、準備にかりましたが、停電・断水だったため発電機を借り、茶工場の井戸で水を出し、ようやく朝ごはんのおにぎりができました。このころには、公民館に50人位の住民が避難していました。このころから

また雨が強く降り出しました。

「これは大変な災害が起きる」と思った矢先、「黒木谷川が氾濫している」という情報が入り、「区長、早く見に来てくれ」と痛ましい電話の声がありました。急いで現場に行きましたが、どうしようもない状態で、土石流が大きな音を出しながら流れていました。すぐに、黒木谷防火用水、道路が土砂で埋まりました。私は「早く逃げん」と言うだけで精一杯でした。「自然災害は、人間の力ではどうしようもなか」と思いました。

公民館に戻り、横のウツソ川の水位を見守りました。「流木が流れてきたら、この避難所は危ない」と日頃から考えていましたが、幸い最近出来た砂防ダムで流木は止まりました。昼過ぎになり、ようやく雨も小康状態になりました。民生委員さんから「小原地区の女性(94)の避難誘導に行ったが、水が橋の上を流れているので危険と思い、避難することができなかつた。その後、小原地

により、幸いにも旧小野小学校に避難した400名に1人も負傷者が出なかつたので良かったです。

また、復旧していく地域の様子、災害から4年経った今、当時を振り返って思うことを語っていただきました。

◇災害後、小野一區で防災に対して取り組んだこと

平成25年6月15日小野公民館一區で消防、消防団、一區の一般住民で図上訓練を行いました。訓練でわかつたことは、平成24年7月14日の災害を図面上に落とし込んだら、私たちの狭い集落でも場所によつて災害の形が異なっていました。土砂災害、床上浸水、床下浸水など。また、昔は上水道が無かつたため沢の近くに家を建てていることがわかり、大雨の時には非常に危険だと気付きました。その後一區集落で防災隣組を作りました。一時避難の場所(3〜6時間)、一回くらの炊き出しの場所、集落の高齢者を支援する人を決め、集落の名簿を作りました。災

害の時にはその名簿を確認する各集落のリーダーも決めました。その他にも災害の時に必要な物資などを書いたチラシを作り、各家庭に配布し、見えるところに貼ってもらうようにしました。

◇復興でうれしかったこと、助かったこと

災害があまりにもひどかつたので、高齢者の中には、この土地を出て子どもたちの所へ行こうと考える人もいました。しかし、名も知らないボランティアの若者たちが大勢来てくれて家の周りの土砂の片付けや田畑の土砂運びを暑い中黙々と作業をしてくれる姿を見て、自分たちも一緒になって土砂運びや石拾いをし、ここに住む勇氣をもらい、皆喜びました。

◇復興で感じたこと

私は当時区長をしていたので県や市の工事によく立ち会いました。県や市の担当者は良く地元の見解を聞いて工事にあたっていた。また、工事の前の測量にも立ち会つたが土地の所有者は、地

区に甚大な被害が出てその女性が孤立している」という報告を受けました。地区の人が助けに行きましたが、水が多くて危険だったので、消防に救助を依頼しました。20分くらいしたらヘリコプターが来て女性を救助してくれました。

それから、「今夜は公民館に避難してもらおう」と考え、夕食の準備をお願いしたら、皆さん気持ち良く受けて頂きました。このころには避難した住民は90人になつていました。

停電のため「夕食は明るいうち」に思い、おにぎり等を食べていた時、避難所裏手の段集落の上の山が大きい音とともに約250メートル崩れました。「今夜はここは危険」と思い、「夕食が終わつたら、旧小野小学校講堂に移動をお願いします」と指示を出しました。移動して1時間もしないうちに、上流の柳原地区にせき止め湖ができ、「いつ崩壊するか分からないので、すぐに高台

に避難」の指示。一区公民館、小学校講堂への避難は考えていましたが、その次は想定外で、いろいろな意見が出て一時パニックになりました。「区長さんが決めてください」との意見が出たので、私の指示で旧小学校2階に移動しました。要援護者は時間がかかり、20分位要しました。

9時半ごろ、八女市災害対策本部と連絡が取れ、「避難住民の人数は約400名」と報告し、明日の朝食の依頼をしました。15日朝、自衛隊のヘリコプターで救援物資が届いたときは嬉しくて感謝の気持ちで目頭がうるみ、「皆さん、有難う」と心からつぶやきました。

14日の豪雨の反省点は、午前0時から正午の12時間に約480ミリという大雨に何の準備もできていなかったことです。避難所の水、トイレ、停電の対応、避難所のありかた、要援護者の支援のしかた。自主防災意識を改めて考え直す日になりました。皆さんの協力

元と市外の所有者では協力が異なりました。

◇4年経った今の思い・心境

災害では「想定外という」言葉は無いと思います。最近テレビや新聞などの報道で広島や関東、東北、北海道などの災害の様子を見聞きすると、「ここまで水が来るとは思わなかつた、こんなに急に来るとは思わなかつた」などと報道されていましたが私たちが平成24年7月14日に経験した時と同じ言葉が並びました。災害は形が違ってもどこでも起こりうると心構えをすることが重要です。

災害の復旧にあたって、市は激甚災害の指定を受けましたが、そのためには膨大な資料を短期間で作り上げなければなりません。もし、市町村合併をしていなければ旧星野村単独で出来ただろうかと思いましたが、合併をしていなければいろいろな方々の知恵、人道支援を受けられ、早い復興の道を歩むことが出来たと思います。



前笠原中央区行政区長
川原 孝行さん

豪雨に見舞われた当日の様子を
当時の行政区長さんに聞きました。

◇当日の様子

私は仕事の関係で7月13日夜から14日にかけて久留米にいました。久留米も雨がひどく、「今まで経験したことのない雨」というニュース速報を聞いて、携帯電話で区の川沿い、谷沿いに住む人に避難するように連絡しました。

川沿いの人たちは水に慣れてるためか、「今まで浸水しなかったから大丈夫」と言っていたが避難したがりません。私は大丈夫なうちに逃げるように伝えました。天井近くまで水に浸か

り、隣の家が倒れかかってきたため、ギリギリになってハンドバッグ一つ持って避難した女性がいいますが、その女性が避難した後に橋が流れています。もう少し早かったら、危ない思いをせず、荷物ももつと持って避難できただろうと思います。区長の家には防災ラジオが配布されていましたが、もう1カ月早く市民にも行き渡っていたら、と思いました。

避難所の公民館で困ったことは、水、電気、電話が使えなかったことです。うちの区は90軒程度のため、安否確認は比較的スムーズにできましたが、半月、固定電話がつかず、私の携帯電話を使い、公民館の発電機で充電しました。携帯電話がなかったらどうなっただろうと思います。

災害を経験して思うことは、自主防災組織の充実と消防団の

強化です。今回、消防団の方々はよく活動してくれました。消防団はボランティアでやっています。指導する立場の人には支援をし、増員を考えていかないといけないのではないかと思います。また、安否情報を知らせる携帯サイトの使い方を住民に教えていたほうが良いとも思いました。

今まで川沿いの人だけ用心していればよかったのですが、これほどの豪雨となれば、どの人も用心しないといけません。避難所の公民館自体が流れて避難しようがない地区もありました。谷の石が流れて橋につまり、家が壊れることは今まで経験したことがなく、谷が整備されているところは被害が小さいため、谷の整備をお願いしたいと思いました。

市役所職員の皆さんはかゆいところに手が届き、よく対応して

一番助かったことは、道路の仮復旧、電気、携帯電話の復旧です。道路や電気は生活する上で欠かせないものであり、通行止めや停電が続いて大変困りましたので、これらが復旧して本当に助かりました。

それに県内外からの義援金や支援物資にも助けられました。励ましの言葉や手紙、電話もたくさんいただきました。また、道路の通行止めが続いて車の通行が不十分だったとき、黒木町出身の女優・黒木瞳さんがお見舞いに訪れ、各地区を回ってくださいました。住民の皆さんは大変喜んでいました。全国の皆さんのご厚意はありがたく、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

◇復旧復興で感じたこと

地区出身の市議、県議、国会議員の方々の迅速な対応と、市役所

や八女県土整備事務所の皆さんの懸命な努力によって、想像以上の速さで区は復旧していききました。市役所、県土整備事務所の皆さんには最初から親身になって対応をしていただきました。被災後、多くの報道機関の方々が取材に来られましたが、このような対応の良さについてはニュースにならず、残念に思いました。

また、復旧工事に携わっていただいた業者さんの親切な対応、及び地域貢献にもお礼を申し上げたいです。工事の際に顔を合わせる、必ず声をかけてくれたり、余った資材で川に降りる階段を作ってくれたりしました。本当にありがたうございました。

◇4年経った今の思い・心境

農協に勤務していた時はなかなか地域に貢献できなかったため、その恩返しとして区長を引き

受けましたが、就任して2期4年目の時に災害が起きました。当時は「私の時に大災害か!？」と思いました。区長としてやれるだけのことはやったと思います。それができたのも、地区の委員さんたちはもとより区の皆さんの協力のおかげです。

役員改選の総会で、復旧復興に向けて市や県との交渉が続くため「留任してほしい」という要望が出ました。それまで区長は2期で交代する慣習でしたので、家族ぐるみでお断りしましたが、皆さんの希望は強く、留任することになりました。

災害から4年経った今、思うことは、微力ながらも区民の皆さんの役に立てて良かったということ。自分自身、大変勉強になりました。良い経験させていただきました。災害を経て、地域の絆、特

いただきました。要望通りにできないものもありましたが、「何とかしてみよう」と言ってもらって助かりました。

また、復旧していく地域の様子、災害から4年経った今、当時を振り返って思うことを語っていただきました。

◇災害後、笠原中央区で復旧復興に向けて取り組んだこと

災害後、復旧復興に向けて区の人々と災害箇所を調査し、被害の状況を市役所に連絡しました。また、集落ごとに危険箇所の点検をし、応急復旧をしました。地区の委員さんたちには、高齢者や社会的弱者の方々の家の巡回や手助けをしていただきました。

◇復旧復興して助かったこと、うれしかったこと

地域が復旧復興していく中で

に高齢者との絆が強くなったと思います。

熊本・大分の地震や東北、北海道の台風被害のTVニュースや新聞記事を見るたび、とても他人ごととは思えません。





前長野行政区長
内山 仁市さん

豪雨に見舞われた当日の様子を
当時の行政区長さんに聞きました。

◇当日の様子

長野地区は名前の通り、星野川の上流から長く広がる土地で、昔から「川が増水したら長野は大変なことになる」と伝えられてきました。

14日朝、避難勧告を受けた頃、40代の息子が「お父さん、大変なことになっている」と言いました。川が県道あたりまで増水したので、息子が隣組に伝えました。避難所の公民館に行くと、住民が避難し始めていました。

また、復旧していく地域の様子、災害から4年経った今、当時を振り返って思っていることを語っていただきました。

◇災害後、長野区で復旧復興に向けて取り組んだこと

復旧復興に向け、長野行政区では自主防災組織において災害対策本部や避難所を公民館に設置しました。また被害状況をまとめる作業を行いました。住民それぞれが市と対応するのは大変であるため、区が被害状況を調べるチラシを作って、人家や田畑、農道の被害状況を聞き取り、区で取りまとめて市へ報告しました。

◇復旧復興して助かったこと、うれしかったこと

復旧復興において住民の皆さんがよく協力してくださり、大変感謝しています。被災1〜2日

私は朝6時過ぎに若い人を連れて高齡者のところに行き、戸をドンドンたたきました。寝ているのか出てきません。玄関を開けたら水がドツと中に入ってきて、水圧で畳が浮き上がりま

した。腰まで浸水したので、明け方だったら危なかったと思う家が必要だと思いました。午前11時頃には水がどんどん増えまして、

長野の自主防衛組織は隣組組織と同じであるため、今回の災害は隣組組織で動いてもらいました。隣組長さんたちは高齡者世帯を把握しており、組長さんたちが家に行つて皆さんに避難するように言いました。重症の要支援者は若い人が2人ついて病院に連れて行きました。

目は住民同士が助け合つて炊き出しを行い、区民の絆がより強まったと思います。被災3日目には市から弁当の配布があり、これも助かりました。ボランティアの皆さんの助けにも感謝しています。

◇復旧復興で感じたこと

復旧復興していく中で感じたことは、県や市の対応の良さです。流木や土砂の撤去作業に対する対応はありがたく、大変心強く思いました。また、長野行政区の自主防衛組織の皆さんには、ボランティアの方々のご接

◇4年経った今の思い・心境

私は平成24年4月に区長に就任したばかりでした。3カ月後の7月に災害に遭い、いろいろな面

長野地区148戸、512人のうち350人くらいが公民館に避難しました。夜遅くに星野川が決壊する恐れがあると

言われましたが、こんな真つ暗な中、移動したら危険だと思いましたが。公民館は浸水しても流されることはないだろう、命は助かるだろうと思ひ、移動することはやめました。

避難所では皆さん自主的に協力してもらい、混乱はありませんでした。困ったことはトイレです。人数が多くてトイレが足りず、簡易トイレを7つ持つてきてもらいました。しかし、困つたのもひと晩だけだったと思います。

市への要望として、要望書を受け付けたことや、できるのかできないのか回答する日を伝えて欲しいと思ひました。その連絡があると、要望書の提出を担当した

で大変な思いをしました。今回の災害は昭和28年の大水害よりも被害が大きく、特に避難誘導が難しかったです。大水害を経験している人は、それより大きな災害だと思わなかったからです。災害の恐ろしさと、すみやかな避難の大事さを身にしみて感じました。4年経った今もまだまだ工事が続いています。この災害を教訓にしていきたいと思ひています。

者は安心して住民に伝えられます。

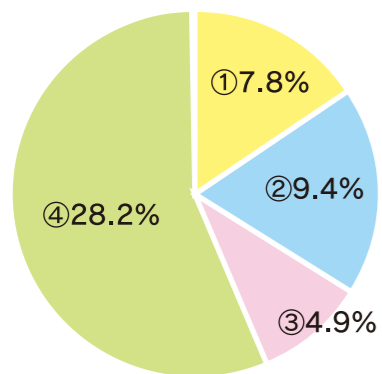
農業の私たちは市との連絡に慣れておらず、やり取りがスムーズにできませんでした。役所のOBなどを連絡係にしてもらえると助かると思ひました。

また、670名の消防団の方々に片付けをしてもらいました。働き盛りの人ばかりで助かりました。ボランティアの皆さんも暑中、文句も言わずに床下にもぐつて片付けをしてくれて助かりました。市からは7月16日から29日まで平均80個の弁当を届けてもらいました。後片付けで自分たちの食事の用意もままならず、大変感謝しています。



行政区長アンケート

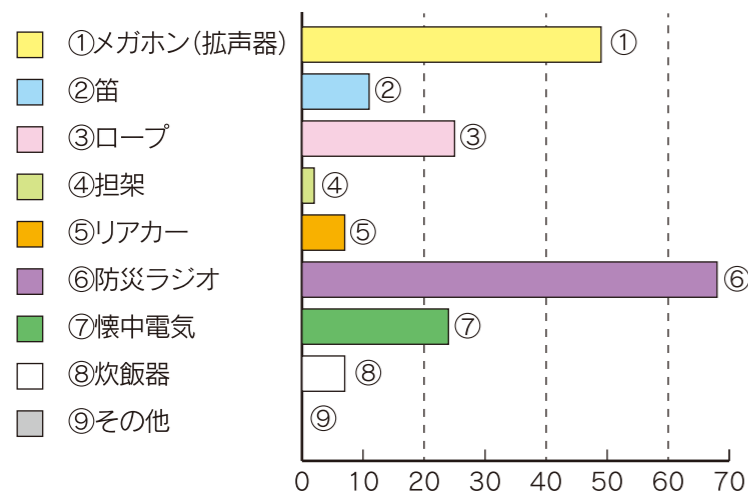
4 活動された中で、どんなことに困りましたか？



	八女市	立花町	上陽町	黒木町	矢部村	星野村	合計	割合
①区域が広くて、みんなに周知がうまくいかなかった。	4	8	2	4	0	1	19	7.8%
②区域内の被害が大きくて、身動きできなかった。	2	9	5	2	1	4	23	9.4%
③住民が言うことを聞いてくれなかった。	2	3	3	2	0	2	12	4.9%
④市などからの情報が入らなかった。	11	28	13	11	0	6	69	28.2%
⑤その他	0	0	0	0	0	0	0	0.0%

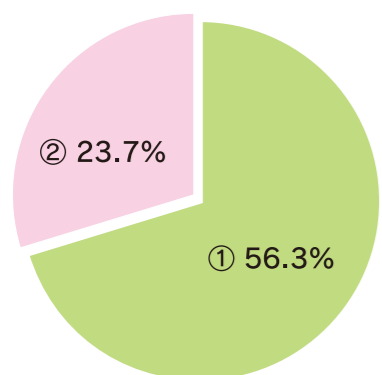
活動中の困った事案に関する質問については、回答が少なかったが、全体の28.2%が「市からの情報が入らなかった」と答えた。また、「住民が言うことを聞いてくれなかった」との回答も4.9%あった。

5 活動された中で、こんなものがあれば助かったと思うものは何でしたか？



災害時の活動に必要な資機材を聞いたところ、防災ラジオと答えた方が27.8%に達した。これは、災害時の配布率が15%程度であったことが要因と考えられる。また、メガホン(20%)やロープ(10%)・懐中電気(10%)等が必要な救助用資機材であることが窺える。

6 活動された中で、助かったこと。良かったことは何ですか？



	八女市	立花町	上陽町	黒木町	矢部村	星野村	合計	割合
①区民の皆さんが協力的だった	28	47	21	28	2	12	138	56.3%
②区民から喜ばれた	16	10	9	16	1	6	58	23.7%
③その他	0	0	0	0	0	0	0	0%

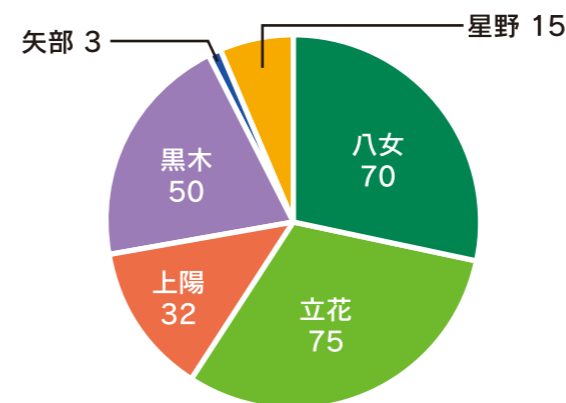
災害時の安全確保については、自助の次に共助が重要となるが、リーダーの指示に基づき、全体的にスムーズな避難行動ができたのではないかと考えられる。

出典元：八女市「九州北部豪雨対策の検証と復旧復興計画」(平成25年3月)

行政区長アンケート

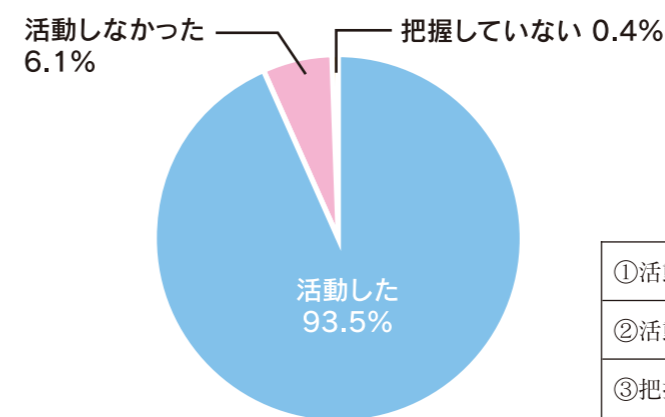
行政区長へ災害当時の活動の内容や様子についてアンケートをとった。以下、アンケートの結果をまとめる。

1 アンケートへの回答の有無



八女市	立花町	上陽町	黒木町	矢部村	星野村	合計
70	75	32	50	3	15	245

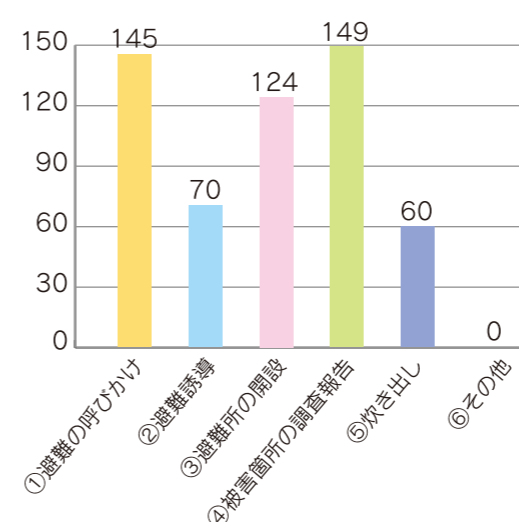
2 今回の大雨時時に行政区や自主防災組織など(地元・地域)で活動されましたか？



	八女市	立花町	上陽町	黒木町	矢部村	星野村	合計	割合
①活動した	60	72	31	48	3	15	229	93.5%
②活動しなかった	10	3	0	2	0	0	15	6.1%
③把握していない	0	0	1	0	0	0	1	0.4%

行政区や自主防災組織では、9割を超える地域(組織)で安全を確保するため、様々な活動に従事していただいた。

3 どんな活動をされましたか？(複数回答可)



	八女市	立花町	上陽町	黒木町	矢部村	星野村	合計	割合
①避難の呼びかけ	33	42	24	33	1	12	145	59.2%
②避難誘導	15	20	12	15	1	7	70	28.6%
③避難所の開設	29	39	16	29	2	9	124	50.6%
④被害箇所の調査報告	34	50	20	33	1	11	149	60.8%
⑤炊き出し	7	20	13	7	2	11	60	24.5%
⑥その他	0	0	0	0	0	0	0	0.0%

活動内容を見てみると、被害箇所の調査報告(60.8%)が最も多く、避難の呼びかけ(59.2%)や避難所の開設(50.6%)を行い、安全の確保に努めたことが窺える。

出典元：八女市「九州北部豪雨対策の検証と復旧復興計画」(平成25年3月)